

特集



# 滋賀県は 健康寿命も 日本一へ

～健康寿命延伸への取組～

令和6年度

## 健康寿命延伸 プロジェクト 知事表彰①

守山市

健康推進員連絡協議会  
たばこ部会

「健康なまちづくり」の推進に向け、滋賀県が展開する取り組みの一つが「健康寿命延伸プロジェクト知事表彰」です。今回は、令和6年度の表彰に輝いた団体のひとつである守山市の健康推進員連絡協議会たばこ部会をご紹介します。こちらの部会では、平成16年の発足以来、地域の受動喫煙防止啓発と健康づくりに地道に取り組んできました。その活動は小中学校での防煙教室をはじめ、紙芝居やポスターによる啓発、世界禁煙デーでの街頭キャンペーンなど多岐にわたります。

本記事では、創設メンバーである3名の方々に、部会の歩みや活動の特徴、20年間にわたる成果と今後の課題についてお話を伺いました。紙芝居やポスター制作、学校での防煙教室など、時代の変化に合わせて進化してきた取り組みの背景には、健康推進員としての強い使命感と地域を思う心が込められています。

守山市 健康推進員連絡協議会  
たばこ部会 概要

【部会の構成員数】

23名（令和7年度）

※健康推進員は全員で約130名

【活動開始年月】

平成16年4月

【活動のきっかけ】

守山市の健康増進計画である「健康もりやま21」にある「たばこ対策」の周知・啓発を目的に活動を開始

【活動・取組の概要】

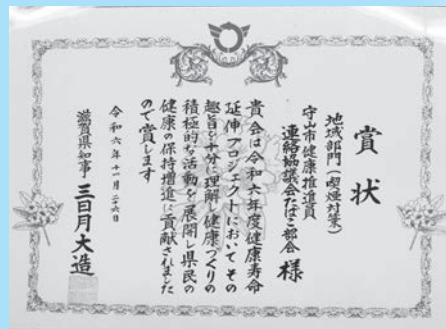
①小中学校での防煙教室

②受動喫煙防止啓発

（マナーアップポスター作成等）



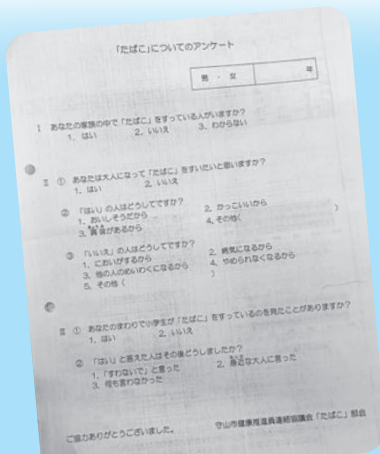
▲たばこ部会メンバーの3名、左から井上さん、安永さん、柴田さん



紙芝居と対話で築いた20年

子どもたちの未来を守る  
喫煙の歩み

守山市健康推進員連絡協議会の一  
の取り組みであるたばこ部会は、平成  
16年の設立以来、地域の健康増進と受  
動喫煙防止啓発に取り組んできました。



「当時は、家庭内喫煙率が高く、学校  
への働きかけも簡単ではありませんでし  
た。そう語るのは創設メンバーのひと  
りである井上さん。



▲井上さん

まず行ったのは、2,000名を超え  
る小学生へのアンケート調査です。その  
結果、過半数の家庭に喫煙者がいる実態  
が明らかになりました。これをもとに、  
「誰でも読めて伝えやすい」紙芝居  
『すこやかくんのゆめ』を自作し、学校  
での防煙教室に展開。以来、内容は時代  
に応じて更新され、令和の子どもたちに  
も響く教材へと進化しています。

たばこについてのアンケート調査結果

対象：市内小・中学校の4～5年生  
実施方法：郵便より配布、回収  
実施期間：平成16年12月  
回収率：2/119 (回収率：94.2%)

学年	4年生	5年生	合計	有効回答	回収率
男児	105	107	212	207	97.7%
女児	103	97	200	195	97.5%
合計	208	204	412	402	97.6%

学年	4年生	5年生	合計	有効回答	回収率
男児	48	54	102	101	98.7%
女児	72	101	173	170	98.3%
合計	120	155	275	271	98.5%

学年	4年生	5年生	合計	有効回答	回収率
男児	28	27	55	54	98.2%
女児	128	111	239	234	97.9%
合計	156	138	294	288	98.0%

喫煙者でたばこを吸っている人はいくらいますか？

学年	4年生	5年生	合計	有効回答	回収率
男児	200	200	400	395	98.8%
女児	272	204	476	468	98.3%
合計	472	404	876	863	98.5%

たばこを吸っている理由

理由	4年生	5年生	合計	有効回答	回収率
1. 家族の習慣	18	68	86	85	97.8%
2. 友人の誘い	13	68	81	80	98.8%
3. その他	24	873	897	896	99.8%
合計	55	2,041	2,096	2,061	98.3%

▲当時のアンケートとその結果

「健康もりやま21」と  
ともに始まったたばこ部会

守山市健康推進員連絡協議会でたば  
こ部会が発足したのは、守山市が「健  
康もりやま21」にたばこ対策を重点項  
目として掲げた平成16年でした。

「最初は勉強から始めました」と振  
り返るのは、創設時から活動を続けて  
いるメンバーのひとりである柴田さん  
です。

当初は、子どもに対する影響、成  
人に対する影響、そして妊娠中の母  
体に対する影響という3つのテーマ  
ごとにグループを作り、勉強会を始  
めました。成人に対しては啓発ポス  
ターを作って各自治会館や公民館等  
に掲示をお願いし、妊婦さんに対し  
ては、検診時やプレマ教室で、母  
体に対する喫煙の影響を大きく模造  
紙に書いて張り出したそうです。子



▲柴田さん

どもに対しては、家庭内での受動喫  
煙防止と教育が大事であることから、  
保健師さんを通じて学校での防煙教  
室に参加する方法を考えました。

現在（取材時）、守山市の健康推進  
員連絡協議会には、食生活改善部会・  
運動部会・虫歯予防部会・離乳食部  
会・たばこ部会・食育推進部会・こど  
も部会・広報部会の8つの部会があり、  
健康推進員さんは全員で約130名。  
そのうち23名がたばこ部会に所属して  
います。

小学校アンケートと紙芝居  
『すこやかくんのゆめ』の誕生

たばこ部会の象徴的な取り組みのひ  
とつが、紙芝居『すこやかくんのゆめ』  
の制作です。これは、小学生にわかり  
やすく禁煙の大切さを伝えるために、  
アンケート調査を実施した結果を受け  
て生まれたものでした。

平成17年度には、守山市内の小学校  
4～6年生2,111名に対して「家  
庭での喫煙状況」などを問う大規模ア  
ンケートを実施しました。結果、過半  
数の家庭で誰かがたばこを吸っている  
という実態が明らかになり、受動喫煙  
の影響が子どもたちに及んでいる現状  
に危機感を抱いたことが紙芝居制作の  
原点でした。



## 時代に合わせて更新され 続ける教材

紙芝居『すこやかくんのゆめ』は、発

「寸劇も考えましたが、人数も時間も必要なので、誰でも演じられる紙芝居を選びました」。当初は小学2〜3年生を対象に考えられていた紙芝居でしたが、学校長から「高学年でも十分使える」と評価され、現在では小学5〜6年生を中心に活用されています。



▲紙芝居『すこやかくんのゆめ』を上演中の安永さんと柴田さん

表当初から幾度も改訂を重ねてきました。例えば、登場人物が遊ぶゲーム機は、時代に合わせてコード付きファミコンからコードレス機器に変更。喫煙のシーンも、「お父さんがソファで吸っている」から「外で吸っていても煙が家に入ってくる」へと修正されました。

「子どもが共感できる内容でなければ意味がありません」と語るメンバーたちは、紙芝居に登場するスポーツ選手も、松井秀喜選手や荒川静香さんのイナバウアーから、今では大谷翔平選手へと変更しています。常に子どもたちの今々に寄り添いながら、教材の見直しを行っているのです。

## 子どもたちの声が 家庭を変える

防煙教室では、紙芝居に加え、たばこの煙がどれだけ広がるかを実際の紐で示すクイズが大人気です。半径7



▲市保健師が作成した授業用教材

メートル、直径14メートルに及ぶ煙の広がりを目の当たりにした子どもたちは、「こんなに広がるの？」と驚き、受動喫煙の影響を実感します。

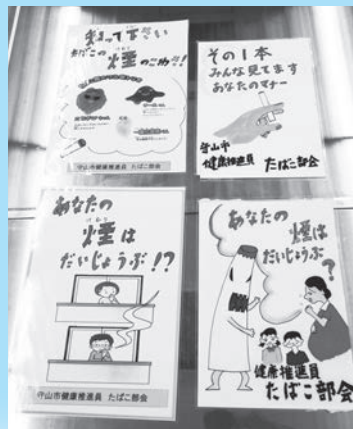
さらに、教室で学んだ子どもたちはその内容を家族に伝えることが多く、「お父さんにやめてと言った」「家で話し合った」など、家庭内での禁煙意識向上にもつながっています。保健師さんと連携し、持ち帰り資料の工夫などを行うことで、家庭への波及効果を高めているそうです。



▲メンバーの皆さんで考えて作成した半径7メートルを示すツール

## 「やさしい表現」で伝える ポスター制作

たばこ部会では、啓発ポスターの制作も長年続けています。その中で大切にしているのが、表現のやさしさです。「たばこは禁止」「やめなさい」という強い



▲これまでに作成されてきた啓発ポスター

言葉ではなく、「あなたの煙は大丈夫？」とやさしく問いかけることで、喫煙者を責めず、共に考える姿勢を打ち出しています。

「私たちはたばこを吸わないからこそ、吸う人の気持ちも大切にしたいと思っています」。そんな思いは、ポスターの細かな描写にも表れています。たとえば、たばこを持つ手の角度にまで気を配り、「現実にはあり得る形かどうか」と仲間内で確認を重ねて完成させたこともありました。「たばこを吸う人が悪いのではなく、問題は副流煙。吸う人も吸わない人も、そこをきちんと意識し、配慮できればよいと思います」と柴田さん。

## JR 守山駅前で 世界禁煙デーを街頭啓発

5月31日は世界禁煙デーです。今年は5月30日に守山市のすこやか生活課と健康推進員で、世界禁煙デーの街頭啓発を実施しました。「世界禁煙デーです」と声をかけながら、ティッシュやモバイルクリーナーを配布しました。



▲世界禁煙デー街頭啓発で活躍した皆さん

## 20年の歩みと、 変わらぬやりがい



▲安永さん

部会が創設された当時、守山市の喫煙率は家庭内でも高く、「過半数の家庭に喫煙者がいた」と言います。それから20年が経ち、子どもたちの知識や意識は大きく変化しました。かつては「主流煙のほうに体が悪い」と答える子どもが多かったのが、今では「副流煙のほうに有害」と即答するようになったといいます。

こうした成果の一方で、部会活動を支える人材の高齢化と後継者不足は深刻な課題です。「以前から次の担い手を探していますが、なかなか難しいのが現状です」と安永さん。平日の活動が多い中で働く世代をどう巻き込んでいくかが今後の大きな課題となっています。それでも、地域の健康を守りたいという思いが、活動を続ける原動力になっています。

## 「声がかかればどこへでも」 今後の展望

現在、たばこ部会では、年に10回程度の定例会を開きながら、市内の小学校で約30回の防煙教室を実施しています。活動の場は学校にとどまらず、子ども会や高齢者サロンへの展開も目指しています。

「お声がかかれば、どこへでも伺いたいと思っています。」と語る部会の皆さん。「子どもたちに伝えるには、小学校だけではなく学童保育でも活動できればよいのですが、まだ定例化できるような段階には至っていません」と井上さん。活動範囲をさらに広げるには、学校や地域団体、保健師さんとのさらなる連携や協力が不可欠ですと続けました。

## 地域とともに、次の20年へ

守山市健康推進員たばこ部会の20年間の歩みは、地域に根ざした草の根の活動によって、確かな変化をもたらしてきました。紙芝居と対話で伝える啓発活動は、これからの地域保健のあり方にも多くの示唆を与えていくことでしょう。

「人のために何かしたい」「自分の健康は自分で守る」——そうした思いを胸に、たばこ部会は今日も活動を続けています。次世代へとこのバトンがつかっていくことを願っています。



▲たばこ部会の皆さん